

伊佐ツーリズム協議会（伊佐市）

伊佐ツーリズム協議会の課題

伊佐ツーリズム協議会は平成 22 年に発足。「子ども農山漁村交流プロジェクト」への取組を経て、これまで教育旅行を柱に取り組んできた。しかしながら活動年数が継続する中で、受入家庭の高齢化やそれに伴う減少、受入れに対する会員間の温度差などの課題も生じてきている。

ここで今一度協議会の活動を活性化させ、原点たる農業体験による交流人口の増加を図り、今後は対象を一般客にも展開していきたいと、研修会の開催、モニターツアーの実施、クリアファイルの作成を計画した。

研修会の実施

9 月 15 日の東川隆太郎氏、3 月 12 日の柴さとみ氏による研修会では、一般客の受入れに対する心構えとともに、伊佐を訪れた人が「ほっこりする」ために何が大切かに重点をおいて学んだ。

伊佐市の「石窯マイスター協会」の活動もあって、ピザ作りに長けたメンバーも協議会内にいることから、本年は移動式ピザ窯を購入。できるだけ大きく、全員が使用できるものがあればよいという要望に応えるものであったが、3 月 17 日から 18 日にかけて行われたモニターツアーでも活躍した。モニターツアーでは、7 名の参加者が伊佐での農業体験を満喫した。

食を極めてスポーツツーリズムへ

2020 年、鹿児島県で行われる国体。カヌースプリント競技会場は伊佐市に決定している。この受入れについて農家民宿が担える部分があるのではと協議会会長の田野田氏は語る。「通常の教育旅行でも心を砕く部分ではあるが、食べ物が心配。アスリートの食事はまた特別。ただちに補給しないといけないエネルギーなどもある。国体受入れを機に、こうした知識習得にも取り組み、スポーツツーリズムの方向にステップアップできていければ。」



モニターツアーの参加者と一緒に調理体験



モニターツアーでのピザ作り体験の様子



研修会の様子

ここがキラリ☆ 伊佐市の取組

伊佐市 PR 課では、年末年始に「伊佐米キャンペーン」として、アンケート回答者の中から抽選で伊佐米と卵をプレゼントする取組を行ったが、モニターツアー参加券も当たるという仕組みにした。結果 789 名がアンケートに回答し、モニターツアー参加を希望する方も。地域の産物に実際に触れてもらう機会と抱き合わせることによる効果も望める。